

沼津柿田川ロータリークラブ



世界へのプレゼントになろう

RI会長 K. R. ラビ”ラビンドラン
 RI第2620地区ガバナー 野口 英一
 会長 梅田 欣一
 幹事 小川 隆洋
 例会日時 毎週月曜日12:30点鐘
 例会場 沼津卸商社センター 2F
 〒411-0912 静岡県駿東郡清水町卸団地203
 TEL 055-971-6500
 事務局 〒410-0312 沼津市原1771-2 増田方
 TEL 055-969-2321 FAX 055-969-2322
 E-MAIL officework@rcj-nk.org

会長挨拶

第1601回例会 会長挨拶

会長 梅田欣一

みなさん、こんにちは。

朗報です。昨日、安本さんに長男が誕生したとのことです。おめでとうございます。川口さんのところも、あと1週間くらいで産まれるそうです。

本日は、ガバナー補佐の期末訪問です。芹澤様、宮島様、宜しくお願い致します。

もうじきソウルでの世界大会です。当クラブからは大石さんに参加していただきます。大石さん、気をつけて行って下さい。

さて、ロータリーの友4月号に、水保全の記事が載っていましたので、紹介致します。

「県民一万人参加の猪苗代湖浄化作業」

猪苗代RC 第2530地区福島県

当地区では2010年に「ロータリー猪苗代湖水環境協議会」を組織し、日本大学工学部名誉教授・中村玄正氏の指導のもと、猪苗代湖の水質浄化を目指して、毎年10～11月初旬の土日に、猪苗代湖の北岸に漂着した水草の回収作業を行ってきました。富栄養化の原因となるリンや窒素を吸収した水草を陸に揚げることで、水質の指標となるCOD(化学的酸素要求量)値を低減させる試みです。同協議会は予定していた5年間の活動を終了し、昨年からは中村氏を理事長とするNPO法人「輝く猪苗代湖をつくる県民会議」を発足。昨年は通算6年目となる作業を行いました。これまでの参加人数は、当地区会員3600人を含め、延べ9845人になります。累計回収量は994立方メートルで、2010年に1リットル当たり1.1ミリグラムあったCOD値は、2013年時点では0.1ミリグラム減りました。今後、他の数値も低減させ、かつて水質日本一と言われた猪苗代湖を再現する努力が必要です。一般の参加者も、各クラブの会員も毎回楽しく参加していただいております、ありがたい限りです。

3月には当地区が(公財)日本水環境学会の「水環境文化賞」を受賞しました。地区会員の努力のたまものです。また、当クラブではこれに先立つ12月17日に、地区復興補助金を利用して、同法人に作業用の軽トラックを寄付しました。湖水浴のできる貴重な砂浜と水の環境をさらにきれいにするため、今後も協力していきたいと思っております。

とこのことです。
 因みに、猪苗代ロータリークラブは、2015年7月2日現在で会員数28名だそうです。

なお、小川さんに、軽トラック1台がいくらぐらいするか聞きましたら、込み込みで64万円程度だそうです。

本日の会長あいさつは、以上です。

幹事報告

■ 事務連絡 ■

次回例会は外部卓話ですので、みなさん予定を合わせて出来るだけ参加して下さい。
 テーブル会の開催を各テーブルマスターは企画して下さい。

本日のゲスト・ビジター

ビジター 芹澤貞治ガバナー補佐様
 ビジター 宮島賢次ガバナー補佐事務局様
 ゲストはありません。

スマイル報告

古泉榮一 ロータリー財団へ。
 古泉榮一 米山記念奨学会へ。
 大石昭裕 妻の誕生日お祝い有難う。
 梅田欣一 芹澤様、宮島様、宜しく申し上げます。
 小川隆洋 芹澤様、宮島様、宜しく申し上げます。
 野口郁夫 芹澤様、宮島様、宜しく申し上げます。
 前田 守 芹澤様、宮島様、宜しく申し上げます。
 伊藤 毅 芹澤様、宮島様、宜しく申し上げます。

会員慶事

【本人誕生日】
 小川隆洋



【配偶者誕生日】
 大石彰子様
 原五月様
 太田るり子様



【結婚記念日】
 野口郁夫・容子夫妻

ガバナー補佐期末訪問



ガバナー補佐期末訪問によせて

静岡第3分区ガバナー補佐 芹澤貞治様

2015-16年度も残り少なくなりました。会長・幹事を始め、会員の皆様には、地区・分区に協力下さりありがとうございました。お陰様で、静岡第3分区内多数のクラブが、地区目標をクリアしようとしておりますことは、会長・幹事の強い指導力、そしてなによりも会員全員の高い目標と、努力の賜物の結果と思います。

現在、日本のロータリーでは、数多くの悩みを抱えているクラブが多数あり、多くのクラブの指導者も悩んでおります。その答えが、先の地区大会、第一日目での講演にあると思ひ、紹介したいと思います。講師は、2013-15年度R・I研修リーダー・小船井修一氏の内容です。

その時代、当然と思われていた価値観などが劇的に変化することを、パラダイム・シフトと言います。最も典型的なものが、「天動説」から「地動説」に転換した事であり、近代においては、産業革命が最大のパラダイム・シフトであります。

さて、つい15年位前までは、通勤電車の風景といえば、男性は新聞、女性は文庫本や週刊誌、若者はウォークマンでした。今ではほとんどの人が、スマートフォンに変わってきました。スマートフォンは、パソコンと同じ機能を持つまでになりました。

日本の人口は減少を続け、今後50年間で、8674万人になる予測です。企業数も1996年をピークに減少を続けています。商工会の会員も減少に転じ、そして、日本のロータリー会員数も1996年11月も企業数に合わせ減少に転じ、近年は減少に歯止めは掛かりましたが、増加する勢いはありません。多くの商店が産業に追い込まれ、シャッター街はロータリアンを失った墓碑のように感じます。

日本のロータリアンの人口密度は、全国的に1000人当たり7.5人程度です。大都会ほどその人口密度は少なく、人口減少地域は企業も減少し、ロータリーを維持するのも困難な状況が顕著です。

1921年、アーサー・F・シュeldonは、国際大会で「最も良く奉仕をした者が、最も良く利益を得、最も良く生き残れる」と語りました。

ダーウィンは『種の起源』の中で、「生き残ることのできる生物の

の種族は、最も優れた能力を持った種族ではなく、環境の変化に対応できる種族である」と書いています。

シュeldonとダーウィンの言葉を一つにすると、「最もよく奉仕した者が、最も良く利益を得、そして、最も変化できる者が生き残れる」。

ロータリーの最大の変化は、規定審議会による、度重なる規則緩和だと思います。会員の身分、一業種一人の原則、いろいろな事が変わりました。また、Eクラブ、衛星クラブなど新しいカテゴリーの誕生、そして、マイロータリー「クラブ・セントラル」の導入により、R・Iとクラブの相互情報交換を可能にし、クラブ運営方法論やこれまで常識だと思われていた事も変わってきました。

2015年の国際協議会で、ジュン・ヒューゴRI事務総長は、「末永いロータリーの成功を果たす為に、伝統を見直す事ができますか。高い倫理基準、クラブの多様性といった組織の根幹を築き、ずっと変えるべきでない伝統もあります。恩恵をもたらすより、むしろ障害となってしまっている伝統もあります。リーダーが毎年交代する伝統は強みもありますが、大きな弱点が1つあります。新しい取組みにおいては、5年～10年かけた継続的な努力が必要です。

クラブ・地区・ゾーンや国際レベルのガバナンスが変わり、その年毎に方向性が変わる事が本当に良い事なのか、新しいリーダーが前任者のバトンを受け継ぎ、長期的な戦略計画に基づく目標を目指して活動する、会員が参加しやすいクラブを創れば、魅力的な組織となります。

日本の一部のロータリアンの常識は、今や世界の世論ではありません。ロータリー内の対話も重要ですが、外に向けたコミュニケーションに力を入れる必要があります。地域の一般の人達を対象にした行事を積極的に実施すべきです。ロータリーがどのように見られているか、見つめる必要があります。地域の人が入会したい、と思うようなクラブにするには何が必要か、自問すべきです。地域で認められなければ会員は減少します。

事務総長は、「会員はあらゆる地域社会で活動し、地域社会と結びつき、社会貢献をしたいと考える人が、真っ先に思い浮かべ、それと同時に職業人が交流し、生涯に渡る友情を築き、地域社会の優秀な人材がクラブに集い、自分の能力を最大限に引き出せるのがロータリー」と述べました。変化を求めていくことが必要だと言っております。

新世代奉仕が青少年奉仕に変わり、ロータリーの目的の第5項に追加、例会及び出席に関して、クラブ細則により柔軟性・主体性がクラブに任せられ、会員の身分や職業分類に柔軟性が与えられます。

変化に対して「おかしい」と言うことは簡単ですが、今は変化していく時代です。私たち自身がどうロータリーを変えていくか、変化して一番利益を受けるクラブになるのか、決してガラパゴス化しないよう、真剣に皆様お考えください。

◆次回例会プログラム◆ 外部卓話（三島ライオンズクラブ・前田磨様）

出席報告

会員数	出席計算に用いた会員数	出席計算に用いた出席者	出席率	5月9日修正出席率
21名	19名	13名	68.42%	89.47%

出席：古泉・太田・野口・菊地・前田・梅田 他 計13名

欠席：濱田・安本・荒川・山本・小早川・坪内 計7名

MU: 計0名